

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年12月22日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300092
法人名	医療法人 恒心会
事業所名	グループホーム イーストサイド おぐら
所在地	鹿児島県 鹿屋市 笠之原町 29番39-1号 0994-41-7420
自己評価作成日	平成27年11月27日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年12月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、法人母体が医療法人ということもあり、定期的に訪問診察を受けることが出来ます。又、緊急時の場合において、日頃より連携をとっていることで迅速な対応が行えています。今年度は様々な委員会活動を活発に行う為、年間計画を立て実施している。活動が活発になることで職員自ら調べ、学び、考え、活動を行えるようになった。知識が高まった事で認知症の方へのケア方法について、今まで以上に議論を活発に行えるようになり、より良いケアに繋がっている。又、隣接の「小規模多機能ホーム サポートセンターおぐら24」と合同で秋祭りを開催することが出来た。利用者間やご家族・地域の方との交流の場となっている。今後も利用者やご家族の意向を確認しながら利用者・家族・職員・地域の方などが楽しく交流出来る環境作りに取り組んでいきたい。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公共施設・学校・商業施設等が立ち並ぶ鹿屋市中心部に立地し、母体である医療機関に隣接しているグループホームである。法人は他にも介護老人保健施設・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所・ヘルパーステーション・小規模多機能ホームを運営して長年地域の医療と福祉の一端を担っている。

法人は職員育成にも力を入れており、働きながらステップアップに向けた資格取得にチャレンジしやすい法人全体の職場環境は職員の研鑽意欲と意識向上に繋がりが、グループホームの職員も現在、介護福祉士13名・ケアマネージャー4名と知識と経験の豊富な職員が多数確保されて法人内の職員異動はあるが質の高いケアの提供がなされている。

医療面・健康管理においても隣接する母体医療機関・在宅診療医・訪問看護ステーションとの連携が図られて本人・家族の安心に繋がっている。また、看取りにおいても本人・家族の希望に沿って主治医・看護師・職員・家族のチームケアで支援に取り組んでいる。

利用者の高齢化に伴い重度化が進んでいる現状ではあるが、管理者・職員は何よりも利用者にとって最善の利用者主体のケアに努め、利用者の笑顔・喜びの表情が見られるように日々邁進している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を書いたカードをネームケースへ入れ、常に確認できるようにしている。週一回朝礼の際、唱和しケアの統一を図っている。	「その人らしさ」「馴染みの関係」などの言葉を含んだグループホーム独自の理念を掲げている。週1回の唱和やネームプレートに入れて常に理念を確認できるようにして理念の共有と実践に繋げている。理念は玄関・スタッフルームに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントを企画時に地域のボランティアの方参加やドッグセラピーの方に来設してもらい交流の機会を設けている。	母体医療機関に併設されていることもありなかなか地域との交流が困難な環境ではあるが、ホームの秋祭りの案内を近隣に配布して訪れてもらうなどホームが孤立しないように努めている。看護学校生・ボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	法人が主催する介護職員初任者研修への講師派遣や現場実習の受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回定期的に運営推進会議を開催している。サービス向上の為、多数の意見を頂きながら運営に活かす努力を行っている。	町内会長・近隣住民・行政等の参加で2ヶ月に1回開催している。ホームからの報告や問題点などについて参加者からの助言をもらっている。家族には交代で参加をお願いしているがなかなか参加が得られない状況である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鹿屋市へは運営推進会議の場を利用し活動報告を行っている。日々の連携に関してはメールや電話を利用し相談・報告を行い指導を仰いでいる。事故発生時も迅速に報告を行うようにしている。	運営推進会議へ毎回参加があり、ホームの実情や取り組みについて積極的に伝えている。また、日頃よりメールや電話で連絡を取り、相談や情報収集、指導や助言を受けている。他にもキャラバンメイト主催の徘徊模擬訓練にも参加して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止について、より深くより活発に取り組むを行う為、今年度より年間計画を立て、委員を中心にユニット内で話し合いを行なっている。活動内容を全スタッフへ認識の周知を図っている。	身体拘束委員会を設置して年間計画を作成し定期的な勉強会や検討会議を行って禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるように職員の認識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、より深くより活発に知識を深める為、今年度より年間計画を立て、委員を中心に防止に向けユニット内、ホーム内全体へ周知活動を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	12月に勉強会開催予定。又、計画作成担当者、身体拘束・高齢者虐待防止・医療安全委員を中心にケアの在り方や家族との関係性についても話し合いの場を設けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、利用約款・重要事項説明書を用い十分な説明を行い納得された上で利用同意を得ている。又、法改定や制度改定の際においても説明を行い変更への同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見を頂ける様にしている。又、サービス担当者会議や面会時など、意見を頂ける機会としている。ご意見が聞かれた際、意見を受け止め適切な説明を行うよう努めている。全体ミーティングにて、全職員へ改善の指導をし周知の場としている。	日常の面会時、行事参加、電話連絡時等で家族から意見や要望を聞き出している。また、利用者ごとに担当者を決めて家族とコミュニケーションが図れるように努めている。家族から出された意見・要望等については可能な限り改善に繋げられるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング・ユニットミーティングを実施し職員の意見や提案を聞く場を設けている。	毎朝夕の申し送り・ユニットミーティング・全体ミーティング等で職員の意見や提案を話し合う機会としている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の増員はなかなか難しい状況にある。半日勤務のパート職員が入職し少しずつゆとりを持ち働ける様になってきている。管理者と年2回面談の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職者にはプリセプターを配置し指導を行っている。全職員に年に1回以上外部研修への参加を進めている。法人内では介護職現任研修を開催しており全職員が参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡協議会に加入し協議会主催の研修等へ参加を行うようにしている。その他の研修会等にも参加し交流の機会としている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始の際、意向の確認やこれまでの生活情報の収集を行うようにしている。各利用者に担当職員を決め関係性の構築に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用前にパンフレットを活用し事業所説明を行い見学を行っている。利用開始時に意向を確認の上、介護サービス計画書を作成をしサービス提供を行っている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談受付表や生活情報を基にサービス提供を行っている。利用者の心身状況を見極め必要時には、家族や必要機関とも連携をとり早急な対応を行うよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者一人一人の能力と意欲を見極めながら畑づくりや料理作り、洗濯物の片づけなど共に行えるように工夫している。共に行う事で生活への喜びを共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際、ゆっくりと交流が行えるよう空間づくりに努めている。花見や敬老会などのイベントを企画の際、参加案内を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベントを企画し地域の方々へ広報を行い交流の機会を持てるようにしている。家族に限らず友人等の面会も快く受け入れている。安全面を考慮し家族の了解の元、外泊の許可を行っている。	重度化している利用者も多く、車椅子対象者も多いが、家族の協力をもらいながら行きつけの美容室訪問や外食・外泊・一時帰宅など馴染みの関係が途切れないように支援している。友人・知人の来訪も多く、訪ねやすい雰囲気作りに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションやイベントを開催し利用者同士が関われる機会作り、コミュニケーション支援を行っている。利用者間関係性を考慮し食事の席の配置を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの理由で契約終了になっても、再入所申し込みの受け入れやご家族の来所受け入れや相談に応じるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中より意向の確認聞き取りを行い把握するようにしている。言葉で表現できない方においても日々の関わりの中で利用者本位のケアに努めている。	日常の会話で思いや意向を把握し、会話が困難な利用者からは表情や体動、家族や関係者からの情報等で本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居後においても利用者やご家族より生活歴を含め情報収集に努めており、その情報をカルテやシステムへ入力しサービス提供に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と日々接する中で心身の状況を把握しシステムの「気づき」や「関わり」の項目へ入力を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にカンファレンス開催。本人や家族、職員より意見を聞き計画作成を行っている。又、計画作成担当者と各担当者によりモニタリングを実施し必要時には介護サービス計画書の変更を行いサービスの提供を行っている。	サービス担当者会議とモニタリングを定期的に行い、利用者・家族の希望や意向を踏まえて主治医・看護師・職員からの助言や意見を検討して現状に即した介護計画を作成している。また、状況変化に伴う見直しは都度行い、変化がなくても定期的な見直しを行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護実施内容をシステムに入力を行っている。システム情報に関しては常に閲覧でき情報共有が行える環境である。日々介護サービス計画書のモニタリング実施出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じ協力医療機関とも連携を行い日々の支援にあたっている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実習生の受け入れやボランティアの方の力をかりながら運営を行っている。避難訓練の際、年1回は地元の消防団の方にも参加して頂き避難誘導のアドバイスを頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ受診の支援を実施している。又、法人内・外の医療機関より往診を受けられるよう支援を実施。その他、必要に応じた医療を受けられるよう支援に努めている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっている。受診はホームから同行しており直接かかりつけ医との関係を築いて利用者の状況について正確な情報を得ている。協力医療機関・看護師との連携が24時間体制で図られ、利用者・家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関である訪問看護ステーションことぶきへ定期的に情報提供を行っており必要時には訪問して頂き相談を行い指導を受けている。必要時の早期受診にも繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要になった際、入居時のサマリーを作成し情報提供を行うようにしている。又、医療相談員を通じ入院中の状況把握に努めており、退院後の支援の在り方についても情報提供を受けられるよう書面にて頂く様になっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族に対し入居時に書面にて方針を説明し緊急時の場合を含め意思確認を行い同意を得ている。	重度化及び看取りに関する指針を作成して入居時に説明し同意を得ている。入居後は身体状況の変化に伴って主治医の判断のもと家族と方向性を共有してホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。これまでに看取りの経験もあり主治医・看護師・家族・職員がチームとなって支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて心肺蘇生法並びにAED操作キッドを利用し年2回全職員を対象に勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を利用者の方にも参加をしてもらい実施している。消防署職員や地域の消防団の方へも参加して頂き避難方法等の指導を行なっている。</p>	<p>年1回消防署立会いの訓練と年3回自主訓練として通報訓練・避難誘導手順確認を行っている。隣接する関連施設との協力関係は話し合われており、地元消防団の参加も得られている。スプリンクラー、自動通報システムは設置されており備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時の羞恥心への対応等プライバシーに配慮した空間づくりやケアに取り組んでいる。言葉掛けの方法なども尊厳を保ちながら一人ひとりに合わせた対応をしている。	毎月法人内で接遇についての勉強会とホーム内でも虐待廃止委員会が中心となってケアのあり方などの振り返りを行い、馴れ合いの対応にならないように職員間で啓発して職員の意識向上を図っている。ときには、自己点検シートを用いて振り返り・意識確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者からの訴えがある場合、傾聴に心掛け意思の表出が行えるようにしている。自己決定促しの声掛けへも工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の利用者の体調や病状を考慮した上で生活リズムに配慮し支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者個々個の好みの把握に努めている。衣類の交換など自ら選べるように支援を行なっている。散髪などにおいても本人の意向を確認の上、出張サービスも活用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	委託業者により食事の提供は季節や行事食など栄養科を考慮した献立の上、提供している。間食など衛生面に注意しながら利用者と共に楽しく調理を行なっている。	食事は法人の管理栄養士が作成した栄養バランスのとれた献立となっている。行事食やそめん流し、おやつ作りなどはホームでも独自に行っており菜園で収穫した季節の野菜等も使われている。また、外食に出かけたりそば打ちや漬物作り、干し大根など利用者に腕をふるってもらうこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立を作成し栄養バランスの摂れた食事の提供が行えている。食事・間食や水分摂取量は常時確認の上、システム入力にていつでも確認が行えるように管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生が身体の調子を整える事に重要である事を認識し毎食後の口腔ケアを実施している。口腔内のトラブルが発生した場合は、本人・家族の意向確認の上、歯科受診の支援を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々人の排泄パターンを把握し定期的にトイレへの誘導を行ない。排泄パット内で失禁することが無いように努めている。心身状況によりオムツ着用されている方においても可能な限り、トイレでの排泄支援を行うようにしている。	職員は個々の身体状況、排泄パターンを把握して、身体状況に問題がない限り、トイレでの排せつを支援している。日中は一般的な下着で過ごす利用者も多く、入居後に改善された利用者もいる。維持できるように職員のさりげない声かけや誘導で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を把握。医師の指示の下、下剤の服用を行なっている。オリゴ糖や食物繊維の多い食材の提供。腹部マッサージや運動の促しも行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴を定期的に行えるよう支援し衛生保持に努めている。誘導の際、拒否のある方にも声掛けを工夫し無理強いすることなく実施している。	基本は週3回を目安としているが、個々の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。介助者も可能な限り利用者の希望にそえるように配慮している。入浴をためらう利用者にはタイミングや声かけを工夫してスムーズに入浴してもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身状況に合わせてお昼寝の支援や夜間の居室誘導等行なっている。居室の湿度温度管理を行い本人の好みの寝具にて休息支援を行なっている。日中ソファでゆっくりとされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬の説明書を確認し不明点等は担当医や薬局の方に問い合わせを行い確認を行なっている。副作用等含め心身の状況を把握の上、定期に限らず相談を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を把握の上、利用者からのアドバイスをうけながらホーム内での野菜作りや季節のお花を植えるなど行なっている。外出やイベントの企画なども行い楽しみの機会作りに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に考慮しながら戸外活動も取り入れるようにしている。家族の方へも参加を呼びかけお花見なども実施している。	個々の気分や天候に応じて、ホーム周辺の散歩やドライブ、買い物などでホームに閉じこもらない生活を支援している。また、季節の花見、初詣、外食、駅伝応援などにも出かけている。花見は利用者と一緒に楽しんでもらおうと家族にも参加を呼びかけており、毎回多数の家族の参加が得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者や家族の意向を確認し能力を考慮した上で検討を行うようにしている。日常的に利用者の意向に添えるよう現金の把握を行い定期的に家族の方からの確認を実施している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話問い合わせの支援を行うようにしている。又、会話を楽しめるよう工夫をしている。毎月家族へのお便りをお手紙と写真を同封し近況をお知らせしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間の衛生には特に注意をし清潔な空間づくりを心掛けている。特に風呂場やトイレ、洗面台等、不衛生になりやすい場所に関しては掃除を徹底している。居間部分には季節に合わせた壁面や行事の写真等を掲示し利用者が居心地が良いと思ってもらえるよう工夫をしている。</p>	<p>明るく家庭的で、広々としており生活感や季節感が得られる共用空間となっている。リビングには随所にソファが置かれ利用者はそれぞれお気に入りの場所で過ごせるように配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>座席の配慮やソファを配置するなどし自由に移動する事が可能になるよう工夫をしている。テレビを好まれる方への配慮も行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や面会時に、利用者の好む物の寝具や家具の持参を促している。本人の写真なども飾るようにし居心地の良い空間作りを工夫している。	ラジオ・ソファ・冷蔵庫・タンスなどが持ち込まれ、家族の写真やお気に入りの装飾品などが飾られて居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の居室には本人が分かりやすいように名前を表示している。それ以外の場所にも何をやる場であるか分かるように表示している。日頃より整理整頓に心がけ安全に過ごせる空間づくりに配慮している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない